

小学校高学年（５，６年生）

１．目標 原爆・戦争（紛争）の実相や悲惨さを学び、その原因や背景を理解するとともに、平和な日本と世界を築くための実践的態度を育てる。

２．教材・資料例

教材・資料	教科・領域	時期	学習内容や留意点	主題
マザーテレサ（東書５年）	国語	１０月	説明文	７，８
森林のおくりもの～いろいろな環境問題について調べよう（東書５年）	国語 総合	１月	さまざまな環境問題について関心をもち、調べまとめる	１，７
海にねむる未来（光村５年）	国語	５月	説明文、２１世紀の地球と人類の未来をつくるのはあなた	７，８
宇宙をみたよ（光村５年）	国語	６月	宇宙船地球号、地球人	７
地球環境について考えよう～「子ども環境会議」を開こう	国語 総合	１１月		１，７，８
わたしたちの国土（大書５年上）	社会	４月	日本周辺の国々の位置 北方領土問題	３
海と風と島々～沖縄県の人々の暮らし～（大書５年上）	社会	５月	沖縄戦，基地問題	３，６
世界とつながる食料生産（大書５年上）	社会	１０月	下がる食料の自給率 食料輸入の問題	７，８
国土の環境を守る（大書５年下）	社会	２月	さまざまな環境問題について知り、自分たちにできることを考える	１，７，８
世界じゅうの子どもたちとともに（東書５年）	道徳	５月	ユニセフ募金	７，８
エデリラの星空（東書５年）	道徳	９月	青年海外協力隊	７，８
もう一人のお友達（東書５年）	道徳	３月	ウガンダの子どもとの交流	７，８
ヒロシマのうた（東書６年）	国語	７月	物語	２，４、５
百年前の未来予測（東書６年）	国語	１月	文章を読んで考えたことをもとに、「未来」について討論会をする	８
平和のとりでを築く（光村６年）	国語	１０月	説明文、原爆ドームの世界遺産化へ	４，８
よりよい未来を築くために～自分の考えを発信しよう（光村６年）	国語 総合 図工	１０月～ １２月	自分の考えをまとめ新聞づくりをしたり、ポスターづくりをしたりする。	１，５，７， ８
朝鮮・中国からの文化の伝来～元の襲来～秀吉の朝鮮侵略～朝鮮通信	社会歴史	４月～ ９月		７

使(大書6年)				
明治維新から世界の中の日本へ(大書6年)	社会歴史	10月		2, 3
15年にわたる戦争(大書6年)	社会歴史	11月		2, 3, 4
新しい日本のあゆみ(大書6年)	社会歴史	12月		4, 8
わたしたちのくらしと憲法(大書6年)	社会公民	1月		6, 8
世界の中の日本 国際連合のはたらき(大書6年)	社会公民 総合	2月		6, 7, 8
キッズゲルニカ アートでリサイクル 地球への願い (日文5・6年下)	図工 総合	通年	「平和」や「地球の未来」をテーマにピカソがえがいた「ゲルニカ」と同じ大きさの壁画を製作するプロジェクト	1, 5, 7
みんなに伝えよう (日文5・6年下)	図工		自分の伝えたい思いや願いをポスターであらわす	1, 5, 7
みんな友だち～アジアの友だちからのメッセージ(日文5・6年下)	図工		鑑賞	5, 7
君が代(5・6年)	音楽	2月	君が代の歌詞の意味	3
義足の聖火ランナー(東書6年)	道徳	4月	地雷問題	2, 7, 8
地球の秘密～愛華さんのメッセージ(東書6年)	道徳	5月	環境問題	7
東京大空襲のなかで(東書6年)	道徳	6月		2,
白旗の少女(東書6年)	道徳	9月	沖縄戦	2, 8
8・6平和集会	特活児童会	7月～ 8月		1, 8
ユニセフ募金	特活児童会	通年		1, 7, 8
大久野島フィールドワーク 毒ガス資料館の見学	社会見学 総合		地図から消された島, 日本軍の加害	2, 7, 8
人権平和資料館見学	社会見学		戦争は最大の人権侵害, 福山空襲	2, 7, 8
ホロコースト記念館の見学	社会見学			2, 7, 8
映画鑑賞	学校行事	7月	人権・平和がテーマのもの	2, 8
国際理解としての英語活動	総合	通年		7,

2. 実践例

実践例 1

『カワカミの子とオキナワの子を結ぶ』(5年)

～川上弾薬庫の教材化～

1 はじめに

転勤して初めての家庭訪問で、高い塀と有刺鉄線に囲まれ、たくさんの警告板がはりめぐらされた川上弾薬庫をはじめて見た時、そこだけが浮かび上がった異様な光景に思えた。いつから？ どうしてここに？ 中ではどんなことが？ 「知りたい。」と思い続けていた私に、当時のことを知る人との貴重な出会いがあり、話を聞くことができた。たくさんの資料に込められた思いの重さを感じながら、できる限りの事実を「川上」の子どもたちに『伝えたい、伝えなくては、』と思った。こうして、教材化・学習・行動への取り組みを始めた。

2 取り組み

社会科の「暑い地方の暮らし 沖縄」の学習の中で発展として取り組んでいくことにした。この学習以前の、川上弾薬庫に対する子どもたちの実態は、「まったく存在を知らなかった」(19人/29人)、「見たことはあった」(9人/29人)、「親子で話をしたことがある」(1人/29人)であった。取り組みにあたっては、事実を事実として伝えること、同じ地域に住んでおられるおじいちゃんの思いを知らせること、自分なりに考えをもたせることを大事にした。

(単元の学習計画)

時	学習内容	資料など
1	沖縄の位置と気候	地図、気候グラフ
2・3	くらしの工夫	家の見取り図、写真
4	沖縄の農業	パイナップル、黒砂糖、作付面積のグラフ、写真
5	変わりゆく農業・漁業	花、地図、生産額のグラフ
6	自然と文化	シーサー、紅型、沖縄焼、音楽テープ、写真、方言集
7	沖縄の人々の願い	写真、手記、ビデオ
8	基地の島	CD「さとうきび畑」、地図、写真、手記、
9・10	オキナワ戦と基地	地図、写真、手記、ビデオ
11・12	川上弾薬庫	地図、年表、写真、ビデオ 読み物プリント
13	沖縄の小学校へ手紙を書く	地図

(1 1 ・ 1 2 時 「川上弾薬庫」の学習の流れ)

学習内容	支援，資料など
1 川上弾薬庫を知る。	川上弾薬庫の写真を見て，どこか考え，出合いを印象的にする。
2 川上弾薬庫の位置，大きさ，目的を知る。 ・ 知っていることや思ったこと，疑問などを出し合う。	位置や地形的特徴をとらえやすいように，色分けした地図を準備する。
3 川上弾薬庫の歴史を知る。 ・ 年表と読み物資料から，戦争と深い関係があったことに気づく。	わかりやすい言葉にした年表を準備する。 読み物として作った「川上弾薬庫物語」から，大まかな流れをつかむ。朝鮮戦争・ベトナム戦争・湾岸戦争などポイントとなるところに注目させる。
4 Bさんの手記から，立ち退きされた人の当時の思い，現在の思いを考える。	同じ町に住んでいるBさんを紹介し，身近な問題として感じられるようにする。
5 学習を終えての感想を出し合う。	沖縄の学習も思い出すよう助言する。

川上弾薬庫についての取材の取り組み

参考資料として「川上村史」「呉の歴史」「日米安保保障条約」「広島県内の軍事基地」「ひがしひろしま郷土史研究会ニュース」を読む中で歴史や地理的観点から見た理由をつかむことができた。しかし，立ち退き当時のことを知り，戦後も返還運動の中心を担ってこられたBさんとの出合いが何より大きかった。弾薬庫ができる前の写真，返還運動時の請願書，会計簿，そして語り，対面を重ねるたびに言葉や表情から湧き出る思いを感じた。現在の川上弾薬庫の実態についての資料は大変入手が難しかったが，前市議でずっと弾薬庫問題に取り組んでいるCさんから輸送状況等を含んだ資料「川上弾薬庫について現地報告書」をいただき，貴重なお話を聞くことができた。

地域へ広げる取り組み

授業後，学級便りで学習の内容や資料，子どもたちの声を紹介し，まず保護者への理解を図った。この学習を6年生の歴史学習へとつなげ，6年生のときに児童手作りの紙芝居にまとめ，地域参観日に子どもたち自身が保護者や地域の人に説明をした。地域の方や保護者からも「知らなかった」「いろいろなことがよくわかった」「関心をもたなくては」と感想をもらった。

沖縄の子どもたちと交流する

沖縄県教組の協力で基地の近くの小学校を10校リストアップしてもらった。その中で4校の子どもたちと手紙や資料のやりとりができた。沖縄の子どもたちからの手紙や新聞などは廊下に貼り出し、学年全体・全校へと広げていった。

3 おわりに

取り組む中で「目の前にありながら、やっぱり川上弾薬庫は米国の基地なのだ」という思いはどんどん強くなった。取材も取り組みもいろいろな壁にぶつかった。けれども、「やれることはある。私たちが眼をそむけてはいけない。」とも強く感じた。Bさんは初めての訪問の日、「50年たって初めて学校の先生が来てくれた。」と喜ばれた。その言葉と笑顔に自分の＜伝えていかななくてはならない責任＞を痛感した。いろいろな場所で戦争に関わるできごとが必ずあり、人の思いが必ずある。まず自分が知り伝えていくことを、これからも目の前の子どもたちと続けていきたい。

実践例 2

～おおくのしまの教材化のとりくみ～（5・6年生）

1 はじめに

被爆地ヒロシマに生まれ育った子どもたちにとって、ヒロシマの原爆被害とおおくのしまの加害性を学習することは、責務であると思われる。また、小学校在学中に学習することは、平和学習を進めるうえで欠かすことのできない内容であると思われる。そして、それらの学習を教室内ですませることなく、実際に現地に行き、自分の目で見て確かめて、戦争の傷跡から今の生活を見つめ直し、平和を希求する子どもたちを育てていかなければならないと思われる。

2 取り組み

9月22日（金）DVD「少年とフクロウ」（50分）（おおくのしまのおはなし）を全校児童で観賞する。

「少年とフクロウ」・・・毒ガス製造時の大久野島における少年とフクロウの交流の物語

社会見学のしおり「地図から消された島」（小学生向けの大久野島・毒ガス工場の概要）を使っての事前学習

「地図から消された島」の内容

- ・ 大久野島の紹介
- ・ 現在と毒ガス工場があったところの大久野島の地図
- ・ 大久野島で作られていた毒ガスの種類
- ・ 中国との戦争で毒ガスが使用されたこと
- ・ 遺棄ガス弾による被害
- ・ 現在も続く毒ガス処理の課題

「地図にない島」を5・6年生で回読

9月29日（金）社会見学 大久野島フィールドワーク

毒ガス島歴史研究所員さんがボランティアガイド

日程

9：35	9：55	10：07	14：13	14：25	14：51
忠海駅着	忠海港	大久野島港着（見学・昼食）	大久野島港発	忠海港着	忠海駅発

フィールドワーク（合計4時間）

2番棧橋 発電場跡 慰霊碑 大久野島毒ガス資料館（ビデオ視聴・展示物の見学）
毒ガス貯蔵庫跡 昼食・自由時間（休暇村大久野島本館前広場） 大久野島ビクターセンター見学 2番棧橋

その他

大久野島フィールドワークによる平和学習に大久野島ビジターセンター見学（入場料無料）を取り入れることで、環境学習も合わせて行うことができる。

見学時間に余裕がある場合は、遺跡を巡りながら島内を1周しながらオリエンテーリング等を行うとよい。

今回は実施しなかったが、「大久野島の歌」を「6・7月の歌」として全校で音楽朝会などを使って歌い、8月の平和のつどいや大久野島の慰霊碑前などでの平和（見学）のつどいなどで歌うとよい。

児童会を中心にして、全校で千羽鶴を折って慰霊碑に供える取り組みも考えられる。

3 おわりに

当初、大久野島のフィールドワークのガイド（説明）を自分（教職員）自身で行う計画だったが、毒ガス島歴史研究所員さんにしてもらって本当によかった。その大きな理由として、次の2点が挙げられる。

1年生から6年生までが理解できる言葉を使い、具体的で分かりやすく説明された。

施設跡の説明にとどまらず、毒ガス工場に従事した人たちや毒ガスによる後遺症によって現在も苦しんでおられる人たちからの聞き取り、今中国で起こっている遺棄毒ガス弾の話も聞くことができた。

見学する学校の所在地と大久野島との関わりについて事前に調べたことを説明のときに話され、子どもたちがおおくのしまを他人ごとと考えず、自分たちの問題として考えることができた。

戦後62年経過した現在、大久野島は国民休暇村のレジャーの島として観光客もたくさん来島するが、毒ガス島としての「おおくのしま」は決して終わったわけではない。遺棄毒ガス弾の問題、毒ガス工場に従事した人たちの毒ガスによる後遺症によって現在も苦しんでおられる人たちがたくさん存在することをわたしたちは認識しなければならない。このことからわたしたちはおおくのしまの歴史的事実を教材化し、次の世代へ受け継ぐ子どもたちを育てていかなければならないと思う。

実践例 3

キッズ・ゲルニカ ～未来はここから～ ができる！
総合的な学習の時間の取り組みとして～

1. はじめに

子どもたちとの出会い

久しぶりの学級担任である。しかも、6年生ということはたった一年間の出会い。やりたいこと、できることは何か、見つけながらやるしかない。そんなスタートの4月だった。私の不安や力みとは全く別なところで、子どもたちは屈託ない。明るく、元気いっぱい、温かかった。

総合的な学習の時間の取り組み（学年の取り組みとして）

4クラスの学級担任を中心に、1年間の総合的な学習の時間の年間計画を検討する。昨年度（5年生）は、障害児教育に重点的に取り組んでいる。本年度（6年生）平和教育を取り組みの柱の一つにしたいことを確認しあった。4クラスみんなできり組めたことが、このキッズ・ゲルニカを創る力になっていった。

2. キッズ・ゲルニカに取り組むまで ～平和学習を振り返って～

沼田鈴子さんに会って 被爆体験を聞こう。 （6月4h）

スタートはヒロシマから。沼田さんの著書「平和の芽」や絵本「アオギリのねがい」を紹介し、被爆によって片足を失った沼田さんの平和公園での活動を知ること、子どもたちは当日を期待して迎えることができた。声が聞き取りにくく、長時間で内容も盛りだくさんではあったが、直接お会いできたことで、沼田さんの平和への熱い思いを感じ、その生き方を学ぶことができた。保護者の参加も呼びかけた。参加者の中には、沼田さんの教え子だという人もいた。

平和公園に行って碑めぐりをし、碑が語ることを調べよう。（7月6h）

沼田さんに生きる力を与えたという被爆アオギリを見に行こう、と呼びかけて実行委員会をもつ。公園内にはたくさんの碑があることを知り、調べたい碑を決定。クラスに持ち帰り、役割分担をして碑めぐり計画をたてる。フィールドワークの後、調べてきた碑文を覚えたり、碑がつくられた歴史や碑が伝えることをまとめ、発表する。

ピースキャンドルをつくって平和への思いを伝えよう。（7～8月3h）

自分たちでできることは？と、8月6日の夜原爆ドームのまわりを囲むピースキャンドルを作る。アオギリの絵を描く子、原爆ドームを描く子、碑文や平和集会のテーマを書く子、学習したこととつなげて、自分たちの平和への思いを確認できた。8月6日には保護者とともにキャンドルに添加しに来た子もあり、たくさんの方が自分たちと同じ思いで参加していることを実感していた。

平和集会で私たちの学んだことを伝えよう。

（7月3h）

組体操『命を未来へつなごう、ともに』と『ZERO LANDMINE』（9月2h）

地雷撤去活動を呼びかけている坂本龍一の『ZERO LANDMINE』の曲に出会う。組体操の編集曲の中に入れてもらう。組体操に取り組みながら、坂本龍一を中心にこの曲ができあがっていく様子や、世界中のミュージシャンの地雷撤去への思いを知らせるニュース番組の録画ビデオを見る。歌詞の意味を調べようとする子、英語を口ずさむ子、楽譜を探してきて練習を始める子、CDを買ってもらった子などがでてきて、話題が広がる。

地雷の学習へ

（11月～12月16h）

・地雷って何だ？

保護者にも「総合的な学習の時間」にどんなことをしているのか知ってもらおうということもあって、4クラスみんなで参観日の授業として取り組む。たくさんの知りたいこと、疑問が出され、分類してみんなで調べて発表し合った。

1億個という地雷の数、子どもたちが犠牲になっていること、富める国が安価でばらまき、貧しい国の人々を苦しめていること、日本もつくっていたという事実、知らなかったことが分かるたびに子どもといっしょに驚き、怒り、たまらなくなる。

・クリスマーンさんの活動について考える。

調べ学習を進めているうちに、クリスマーンさんに出会う。「地雷と聖火」を教材化して彼の生き方、メッセージをみんなで考えた。彼のサインに右手右足がないことと沼田鈴子さんを重ねた子もいて、一学期の取り組みがつながっていることがうれしかった。

・地雷撤去活動をしている鬼丸さんとの出会い

NGOの地雷撤去活動している人の話が聞きたい。インターネットで見つけた神戸元気村の鬼丸さんと連絡がとれ、無理を言って、九州講演の途中を広島に寄ってもらうことになった。

来校実現が決まってからの一週間、「私たちにできることを」と、実行委員会がフリーマーケットを呼びかけた。保護者の協力もあって2万円あまりの収益があがり、講演後、地雷撤去に役立ててほしいと鬼丸さんに自分たちの思いを託すことができた。

『あくま』がマレーシアでしたことは

（12月2h）

社会科歴史学習と合わせて、日本軍が東南アジアでどんなことをしたのか。加害の歴史についても学び、考えてほしくて、数年前平和学習の旅に参加したとき知ったことを教材化した。6年生担任をしたら、ぜひ使いたいと温めていた教材である。戦時下では、優しい父もあくまにならされてしまう。事実を事実として受け止め、加害者としてのつらさについて、これからのあり方について問題提起できたのではと思う。

ここにも、沼田さんが登場している。

3. 卒業制作はキッズ・ゲルニカで

卒業式のステージに6年生の共同作品が掲げられ、それをバックに卒業生が入場して卒業式が始まる。それが今まででの本校の手作りの卒業式であった。今年はそんな卒業式はできそうにない。卒業制作はどうするのか。卒業式の議論が気になりながら、それとは別のところでとにかく共同制作は進めようと動き出す。

実行委員会立ち上げ（1月末 第1回卒業制作実行委員会発足）

図案募集・決定

制作（2月）

実行委員会とクラス単位で制作開始 5h x 4 クラス

保護者にもよびかけ 2月19日 1h

タイトル募集・決定 ~未来はここから~

しあげ・体育館ステージ展示 2月25日

作品は一年間の子どもたちの学習したことの集大成としてできあがった。実行委員会の子どもたちを中心に画面の構成をクラスに伝え、一人ひとりが描きたいところにあれこれと思いをいいながら描き込んでいく。時には自分の思いと違ってしまっていることもあり、怒ったり、再度話し合ったり、修正をしたりの繰り返しが続いた。ヒロシマから自分たちの思いが発信されている。とすると、アフガニスタン、カンボジアで地雷撤去活動をしているところもここにしたい。世界へ場面をひろげるための階段を描きかけた子がいたがうまくいかない。「子の大きな木の向こうにアジアがあっていい。」「じゃあ、そこで私は『ZERO LANDMINE』を弾きたい。」一人ひとりが未来の自分をイメージしながら自分を描いて、立ちたいところに貼り付け、ゲルニカは完成した。

4 . 最後の授業は『世界がもし100人の村だったら』

本を紹介しながら、みんなで予想し帯グラフをかいていく。今、世界が抱えている問題に気づき、まだ間に合うという作者のメッセージから、前向きな生き方を見つけてほしいと思う。ここでも子どもたちは、富める国と貧しい国の問題を地雷の学習につなげていく。

5 . おわりに

いつ完成とするのかと毎日のように筆をもつ子らとともに、泣いたり、怒ったり、喜び合えたりしながら、制作もなんとか進み2月末完成にこぎつけた。タイトル ~未来はここから~をつけて体育館ステージ正面に展示し、みんなで完成の満足感にひたつてうなずき合った。

子どもの反応を大事にしながら、やれること、やりたいことを進めることができた。

実践例 4

小学校 6 年社会科歴史指導計画

中単元「アジア・太平洋に広がる戦争」(6年社会・日本のあゆみ)

本単元は教科書(大阪書籍)では7時間扱いであるが11時間程度で扱いたい。

小単元		学習のねらい	時間数	視覚に訴える資料
	導入	手塚治虫の戦争体験を手がかりに、当時の日本の様子に関心を持ち、学習課題をつかむとともに、学習計画をたてることができる。	1	手塚治虫「ぼくの描いた戦争・紙の砦」(KKベストセラーズ)、「戦争漫画傑作選」(祥伝社)、DVD「ぼくは孫悟空」など
戦争がはじまる	柳条湖事件(満州事変)と「満州国」	1930年当時の様子から、日本が戦争への道を進んでいった経緯と理由をとらえることができる	1	講談社DVDブック「昭和ニッポン1926~1945」(講談社)など
	日中戦争	日中戦争が起こった理由や経緯と、多くの中国人に被害を与えたことをとらえることができる。	1	「黒い足跡」「続黒い足跡」(平和教育研究所)など
	太平洋戦争	戦争が日中戦争から太平洋戦争へ拡大していった様子をとらえることができる。	1	DVD「第二次世界大戦全史・太平洋戦争編」(P)、ビデオ「ドキュメント太平洋戦史」など
	戦線の拡大と強制連行強制労働	占領地においてアジア・太平洋地域の人々に大きな被害を与えたことをとらえることができる。	1	ビデオ「陳さんとイチョウ」「50年目の叫び～安野発電所中国人強制連行」など
戦争と人々の暮らし	戦時中のくらし	資料や戦争体験者の話から、戦時中の国民の変化や、戦争が国民の生活に大きな影響を与えたことを理解することができる。	1	「復刻版戦争実物資料・平和への伝言」(あけび書房)など
	戦争をささえたもの	資料や戦争体験者の話から、戦争遂行のための教育や国家総動員体制を理解することができる。	1	「復刻戦争と平和の実物資料」(桐書房)、「ほんとうの近現代史シリーズ」(モノ企画)など
	激しい空襲	アメリカ軍の空襲によって国内の人々も大きな被害にあったことを理解することができる。	1	DVD「火垂るの墓」「うしろの正面だあれ」など
	沖縄戦	沖縄戦では兵士だけでなく多くの住民が犠牲になったことを理解することができる。	1	岩波DVDブック「オキナワ」(岩波書店)、ビデオ「戦場の童」など
	原爆投下	広島・長崎の原爆投下による被害の実相をとらえ、投下目的について考えることができる。	1	ビデオ「はだしのゲン」、岩波DVDブック「ヒロシマ・ナガサキ」(岩波書店)など
	敗戦	原爆投下やソ連の参戦を調べることから、日本が降伏した経緯を理解するとともに、戦争をふり返り、自分の考えをもつことができる。	1	岩波DVDブック「平和ミュージアム」(岩波書店)など

実践例 5

『ピース・フラッグに思いをこめて』
～ 社会科歴史学習から卒業式へ～

1. はじめに

6年生で行った社会科の歴史学習を軸にし、「日本国憲法」の授業を中心的な学習として行い、その後、総合的な学習の内容に発展させながら、平和の大切さを理解し、行動へとつなげていくとりくみをすすめた。

2. とりくみ

国際連合の誕生、国連憲章、世界人権宣言、子どもの権利条約制定への一連のあゆみは、世界の平和・人権運動が、第二次大戦後しだいに世界的規模で高まっていることを示している。日本国憲法の制定は、このような世界の平和・人権への国際的な高まりを背景に実現したものである。そこには、人類未曾有の殺傷・迫害をともなった第二次世界大戦の痛恨の反省があった。

アメリカのアフガニスタン攻撃や今回のイラクに対する攻撃は、逆に世界的な規模で、「平和・人権・国際連帯」の気運が高まるきっかけともなった。特に、最近の平和運動や人権運動の中で、改めて日本国憲法第9条の平和的条項の意味が国際的に問い直されている。今だからこそ、日本国憲法制定の意義を子どもたちには実感を持って認識してほしい。押し付けられた憲法という批判もあるが、日本国憲法は敗戦から学んだ国民一人ひとりの思いと同じであったことを理解させたい。そして、アジア侵略についての反省と平和への希求が根底にあることも確認していきたい。子どもたちには、日本国憲法を有する日本を誇れるようになってほしいと願い学習を進めていった。

(学習計画)

単元	教材	主な学習内容
戦争への道	【15年戦争(アジア太平洋戦争)】 不景気な世の中	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期の深刻な不景気や飢餓に苦しむ人々の生活を知る。 ・戦争への道を批判した人々の存在と中国への侵略の拡大・抗日運動の様子をつかむ。
	中国との戦争	
	アジアへ広がる戦争	<ul style="list-style-type: none"> ・お墓調べから、戦争の拡大とその目的を考え、戦争の展開をつかむ。 ・戦争に駆り立てる教育の存在を知る。 ・沖縄戦・空襲・原爆の惨状を知り、戦後の日本社会を展望する。
	学校も村も町も「戦場」だった	
	【平和な生活へ】 戦争が終わった	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに、戦後復興へむけて歩み出す人々や子どもたちの姿を調べ、その思いをつかむ ・日本国憲法は、平和で民主的な国家をのぞむ人々
	日本国憲法	

平和なくらし	<p>新しい教育 始まった6・3制 豊かな生活</p> <p>公害 高度経済成長のひずみ ジュゴンの棲む海とアメリカ軍基地 新しいエネルギー 原子力の危険・東海村核燃料工場の事故・東京電力の問題</p>	<p>の願いにそったものであることが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法から、新しい教育の理念について考えることができる。 ・アジアの戦争をステップに技術革新を成し、高度経済成長政策を成功させたことをつかむ。 ・自然環境を無視した地域開発のため各地で公害が発生したことを知る。 ・沖縄米軍基地をめぐる諸問題を調べ、日米安全保障条約について考える。 ・東海村核燃料工場の事故・東京電力の問題について知り、これからのエネルギーのありかたについて考える。
21世紀の世界に生きる	<p>【私たちの地球】 宇宙船地球号の乗組員と世界ナンバーワン探し</p> <p>【世界の人々】 ダーツで調べよう世界の国</p> <p>【宇宙船地球号の危機】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球には60億の人間が住み、多くの動植物が自然条件を選び生育していることを知る。 ・世界には様々な文化や人種の住む様々な国があることを知る。 ・平和な国や戦争をしている国などあることを知る。 ・地球環境について考える。 ・オゾン層破壊、酸性雨等調べる。
	<p>【私たちにできることは？】 戦争をとめよう みんなに思いを伝えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平和を守る大切さについて学ぶ。 ・自分たちの思いをどう伝えたらよいか、どんな行動をすればよいか考える。

ニュース帳のとりくみ

日頃から社会の情勢やニュースに目を向けさせるために、6年生になってからニュース帳にとりくませた。家庭での自主学習として一日に1ページずつ新聞の切り抜きを貼ったり、テレビのニュースを書き留めたりしたものに、自分のコメントを書き添えるようにしていった。夏休みには、これからの歴史学習に活かすために、8月6日にむけて組まれる戦争や原爆についての特集記事についてまとめることを課題とした。

「お墓調べ」で戦争を知る

歴史学習の中で、15年戦争を扱うときに、地域のお墓を調べる活動を取り入れることを決めた。それは、戦争の傷跡が自分の身近なところにあるのだということ、戦争で亡くなった人の命を数字でとらえて学ぶのではなく、「一人の命の重さ」を実感として感じ取らせたいという思いからだ。実際にお墓を調べることで学習につながるかどうか、自分たち



で地域の墓所を訪ねてみることにした。実際に訪ねてみて、戦争が今までより身近な問題に感じられた。

お墓調べの後、おじいちゃんに昔の話を聞きながら海岸線を歩いていると、岸壁に大きな穴が開いているのをみつけた。それは、戦争末期、敵の本土襲撃に備えて小型船を隠しておくための壕だと分かった。



その後、当時の国内の様子として、教育勅語にもとづく皇民化教育によって人々が戦争にかりたてられていったことや戦争がすすむにつれて人々の生活が苦しくなっていった様子、それにもかかわらず、軍部は国民には本当のことを知らせず戦争を激化させていったことなどを学習した。

地域の人から戦争中の生活の様子を聞く。

子どもたちの祖父母の世代も戦争を体験していない人が多くなってきている。そこで、地域のお年寄りの方から戦争のころの子どもたちの様子や人々の生活について話してもらうことにした。子どもたちも臨場感あふれる体験談を聞くことができ、当時の様子がよく分かった。



日本国憲法を学ぶ

日本国憲法は敗戦から学んだ国民一人ひとりの思いと同じであり、アジア侵略についての反省と平和への希求が根底にある。その学習を通して日本国憲法を有する日本を誇れるようになってほしいという思いで、戦後、新しい憲法が作られていった過程を当時の人々の思いに沿って学習することができるように計画を立て授業を行った。

ねらいを「日本国憲法は、平和で民主的な国家をのぞむ人々の願いにそったものであることが分かる」とし、大日本帝国憲法下での生活や政治、教育などと比べながら学習を進めていった。敗戦時の国民がいかに平和を希求し、戦争は二度と起こすまいと考えていたかに気づくことができた。

「ダーツで調べよう世界の国々」

アジア、中東、アフリカ、ダーツが当たった所は、今まで身近でなかった国々。世界には自分の知らない国や地域でいろいろな問題があることを子どもたちに気づかせることをねらいとした。はじめはダーツで当たったからということで調べ始めた子どもたちであったが、調べていくうちにその国での生活（食事をはじめとした生活一般）や教育、習慣など多方面にわたって興味深く調べていくことができた。国によっては情報が少なく調べるのが大変だった国もあった。教科書に載っている国（中国、韓国、オーストラリア、アメリカなど）以外にも様々な国や地域があり、そこではそれぞれの人々の生活があるということに気づくことができた。

ピース・フラッグを作ろう！

世界の国々を調べているちょうどその時、ニューヨークのテロ事件をきっかけに戦争への緊張が高まってきた。そこで、「私たちにできることはないだろうか」と子どもたちに呼びかけた。「自分たちの思いをピース・フラッグの形にしよう。」そして、卒業式に参加した人たち全員に思いを伝えたいというところまで思いが高まっていった。デザインは、子どもたちが家で考えたものを持ち寄り、みんなの話し合いで選んで決めた。中心の地球の貼り絵は中学校で見たものを自分たちも作ってみようということで貼り絵にした。卒業式前日やっと完成して、体育館に運び掲示した時にはみんなから思わず歓声があがった。



3. おわりに

学習を進めていくにつれて、子どもたちのニュース帳の内容は充実していった。保護者からも「近頃はニュース番組を見るようになり、家でも社会の出来事について話し合う機会が増えた」という言葉が聞かれるようになった。子どもの学習をとおして、保護者も社会問題に関心を持つきっかけができた。

また、私たち自身も子どもたちと一緒に学習を重ねていく中で、地域の様子や歴史をあらためて知ることができた。実際に話を聞くことにより、この地域の歴史と当時の様子に思いを馳せることができた。そしてさらに、自ら地域に出て行くことで、地域の人たちとつながることができた。

卒業した子どもたちが大人になった時、自分たちが何をすべきかわかる大人になっていることを私たちは願ってこのとりくみを続けてきた。これからも子どもたちとともに保護者や地域の人たちとともにヒロシマでのとりくみを地道に続けていきたい。

4. 年間計画例

5年生平和教育年間計画例

月	学校行事	特別活動・児童会	総合	教科	道徳	読書
4月	入学式 おむかえ遠足 学校の樹木あてクイズ		国際理解としての英語活動・自己紹介(わたしは広島出身です。)			
5月	運動		世界とつながる海水産業の実態とわたしたちの町	自分の考えを伝える(国語)	世界中の子どもたちとともに(東書)	猫は生きている(東書)
6月		8.6学級集会へ向けての準備学習		こんな時かんじることと思うこと(図工) これからの食料生産(社会)		彼の手は語りつく(東)
7月				表現活動(体育) ヒロシマから		
8月	登校日	8.6学級集会				
9月	学習発表会	平和の発信 灯り祭へ出すぼんぼりに思いをこめて	平和の発信 総合的な学習	料理って楽しいね!おいしいね!(家庭科)	エデリラの青空(東書)	マザー・テレサへの旅(東書)
10月				マザー・テレサ(国語) 森林のおくりもの(国)		約束の国への長い
11月						
12月						
1月		オリエンテーリング大会 樹木オリエンテーリングで今日夾竹桃について学ぶ		わたしたちの生活と自然保護(社会)		
2月				のびのび世界遺産地図を作ろう(社会)	もう一人のお友だち(東書)	
3月	卒業式					

小学校6年平和教育年間計画（案）

月	学校行事	特別活動・児童会	総合	教科	道徳
4月	入学式		国際理解としての英語活動（年間）	社会・大書 歴史「日本の歩み」	「義足の聖火ランナー」 (地雷)東書
5月		古墳見学		朝鮮・中国からの文化の伝来	
6月	運動会 映画鑑賞	8.6の取り組みについて児童会提案			
7月		音楽朝会「青い空は」		秀吉の朝鮮侵略	「東京大空襲のなかで」東書
8月	登校日	8.6平和の集い 戦争体験を聞く 平和アピール			「原爆ドームは永遠に」東書
9月		修学旅行		朝鮮通信使	「白旗の少女」(沖縄戦)東書
10月	研究会			国語・光村 「平和のとりでを築く」 「よりよい未来を築くために」自分の考えを発信しよう	社会・大書 歴史「明治維新から世界の中の日本へ」
11月	学習発表会	環境・人権・平和をテーマとした楽曲の練習	「よりよい未来を築くために」 自分の考えを発信しよう(新聞作り)	図工 自分の考えを発信しよう(ポスターづくり)	社会・大書 歴史「15年にわたる戦争」
12月		ユニセフ募金			社会・大書歴史「新しい日本の歩み」
1月		人権平和資料館の見学		社会・大書 公民「私たちの暮らしと憲法」	
2月			インターネットで調べる「世界の中の日本」	社会公民・大書「世界の中の日本」「国際連合のはたらき」	
3月	卒業式				